

第2章 障害者を取り巻く現状

1 人口及び障害者の割合

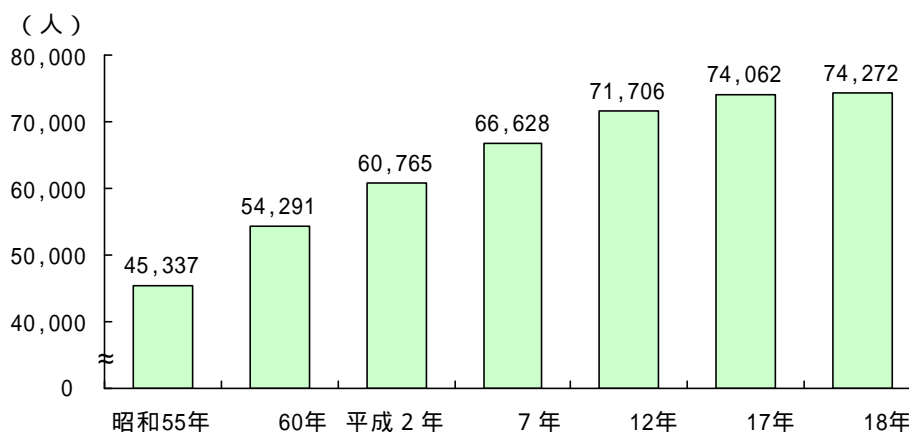
甲斐市の人口総数の推移を国勢調査、（平成15年以前は合併前の3町を合わせた数）及び住民基本台帳で（平成18年）みると、増加傾向となっています。平成17年と平成18年の1年間で210人の増加です。

人口3区分別に構成比の推移をみると、0～14歳までの年少人口は低下傾向で、平成2年までは2割以上を占めていたのが平成18年には、15.7%にまで低下しています。一方、65歳以上の高齢者人口は上昇傾向で、平成7年から1割を上回り、平成18年で15.6%と、年少人口とほぼ同率になっています。

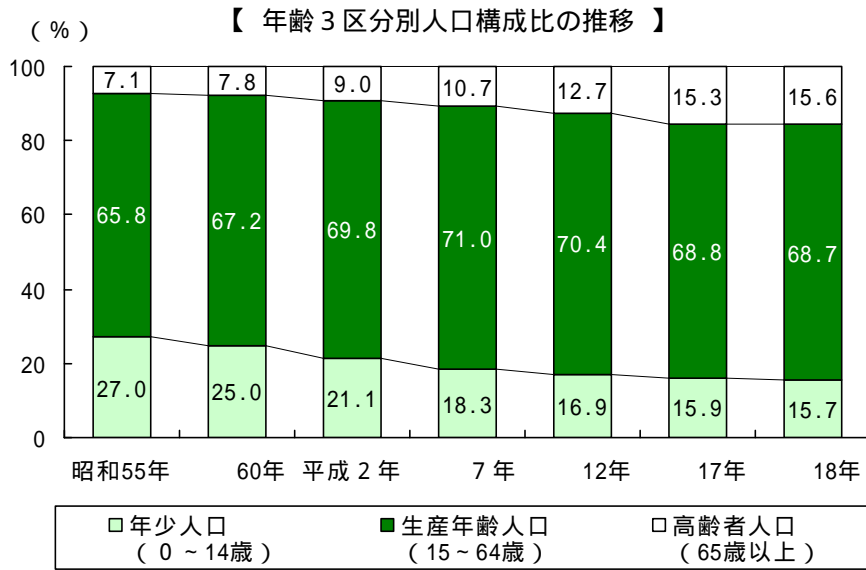
【 年齢別人口の推移 】

(人)

	昭和55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	18年
総人口	45,337	54,291	60,765	66,628	71,706	74,062	74,272
年少人口 (0～14歳)	12,220	13,554	12,841	12,188	12,092	11,799	11,676
生産年齢人口 (15～64歳)	29,816	36,487	42,392	47,302	50,502	50,933	51,009
高齢者人口 (65歳以上)	3,230	4,247	5,496	7,131	9,087	11,327	11,587
年齢不詳	71	3	36	7	25	3	0



資料：国勢調査 ただし平成18年は住民基本台帳及び外国人登録人口（各年10月1日）

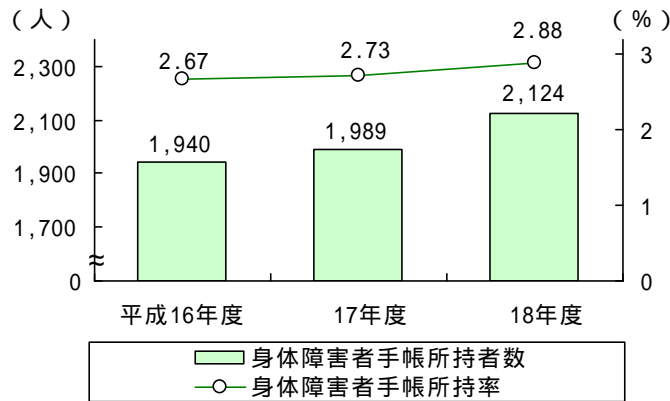


資料：国勢調査 ただし平成18年は住民基本台帳及び外国人登録人口（各年10月1日）

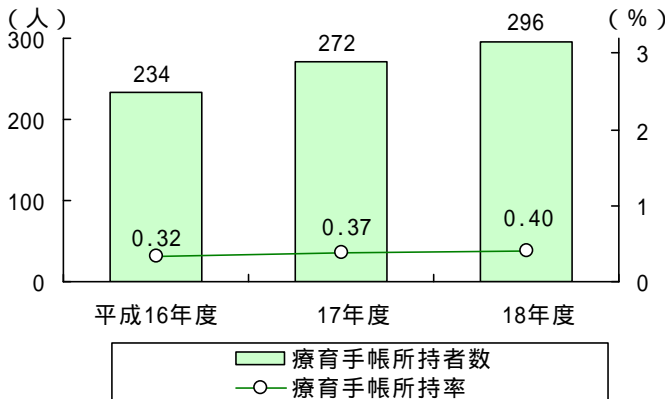
最近3年間の各手帳所持者について比較すると、いずれもわずかながら増加しています。総人口からみる所持率は、身体障害者手帳の所持が最も多いため、総人口に占める割合は他に比べて高くなっていますが、前年からの伸びはいずれも同程度となっています。

【 障害種類別手帳の所持者数と総人口からみる所持率の推移 】

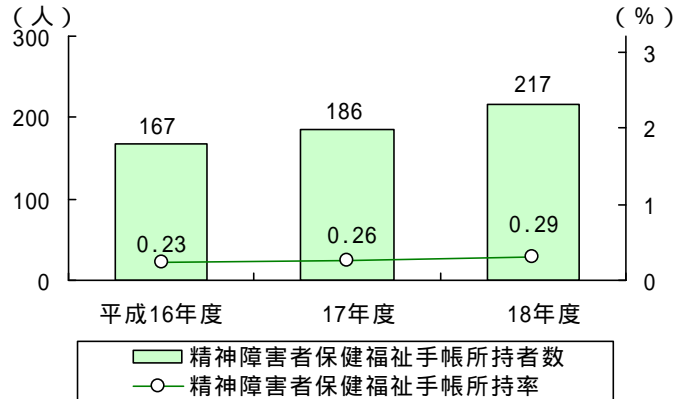
< 身体障害者手帳 >



< 療育手帳 >



< 精神障害者保健福祉手帳 >



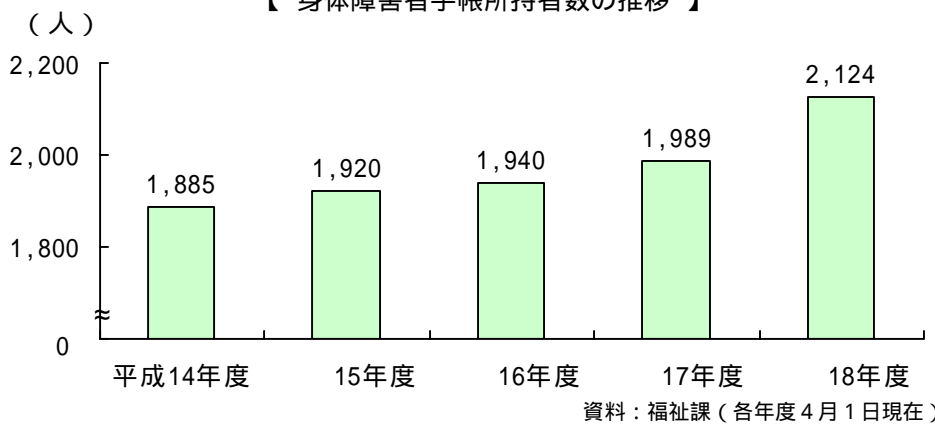
資料：福祉課（各年度4月1日現在）

2 身体障害者の状況

身体障害者手帳の所持者数は増加傾向で、特に平成18年度は前年度より135人増加して、2,000人を上回っています。

障害の種類をみると、「肢体不自由」が最も多く、中でも1級、2級の重度者が多くなっています。種類構成比を程度別にみると、1級、2級の重度者と3級、4級の中度者は、「肢体不自由」が半数前後を占め、「内部障害」が3～4割と、以上の2項目が主となっています。一方、5級、6級の軽度者は、「内部障害」は皆無で、「肢体不自由」に次いで「聴覚平衡機能障害」が高く、4人に1人の割合を占めています。

【 身体障害者手帳所持者数の推移 】

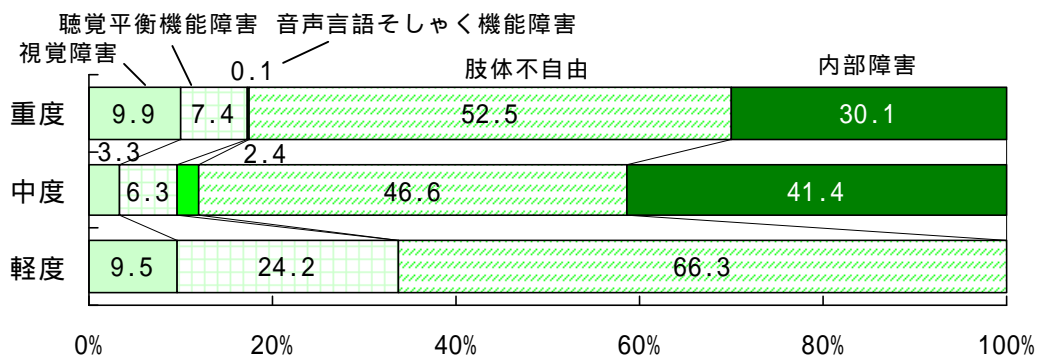


【 障害種別・等級別 身体障害者手帳所持者数 】 (人)

		視覚障害	聴覚平衡機能障害	音声言語そしゃく機能障害	肢体不自由	内部障害	計
重度	1級	50	8	0	277	304	639
	2級	52	68	1	262	5	388
中度	3級	13	31	13	143	140	340
	4級	14	21	7	241	201	484
軽度	5級	19	1	0	116	0	136
	6級	7	65	0	65	0	137
計		155	194	21	1,104	650	2,124

資料：福祉課（平成18年4月1日現在）

【 障害程度別 障害の種類 】

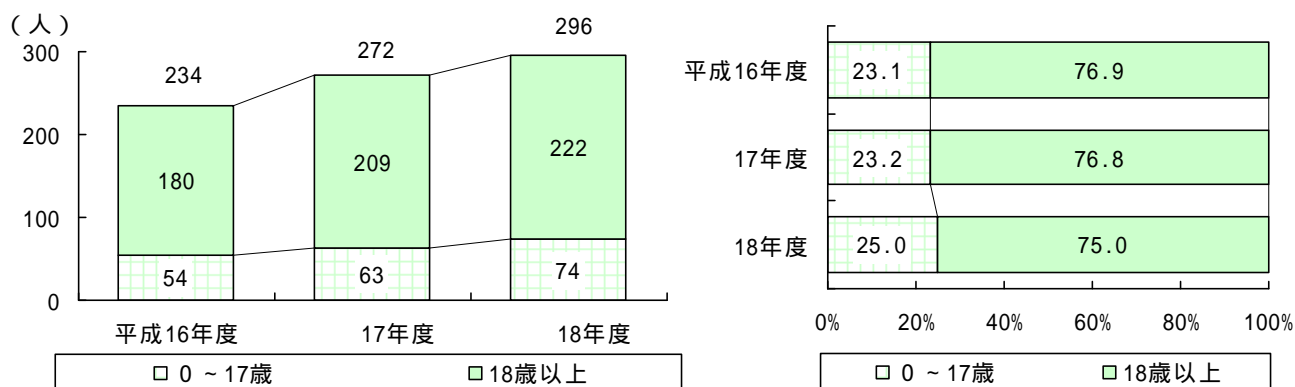


3 知的障害者の状況

最近3年間の療育手帳所持者の状況も増加傾向にあり、平成18年度では296人と、この2年間で62人の増加となっています。年齢2区分別に推移をみると、0～17歳の割合がわずかながら増えています。

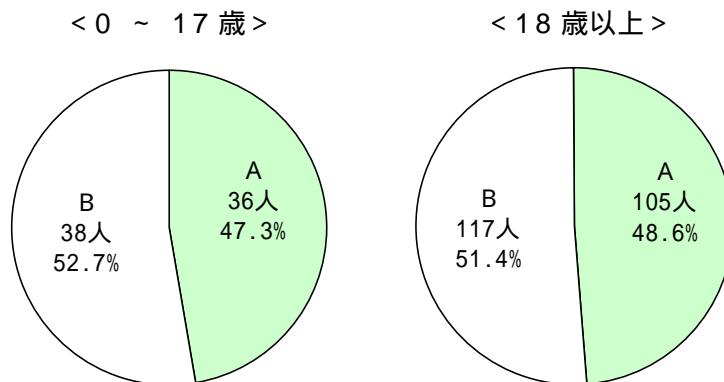
平成18年4月1日現在の障害の程度を比較してみると、0～17歳、18歳以上のいずれの年齢層においても、中・軽度にあたる「B」判定がやや多くなっています。

【 年齢2区分別 療育手帳所持者数の推移 】



資料：福祉課（各年度4月1日現在）

【 年齢2区分別 障害の程度 】



資料：福祉課（平成18年4月1日現在）